

大学

文学部 国文学科

古典基礎

外山 敦子 教授

現代にも通じる身近な話題を出発点に、
古典文学への関心と基礎知識を深める。

日本の古典文学を学ぶ上でまず必要となるのが、当時の習俗や社会制度、歴史や文化など、作品の書かれた時代背景を知ることです。

国文学科1年次の選択科目である「古典基礎」では、古典研究の導入として、それら基礎的事項を理解し知識を身につけることを目的としています。古典が好きな人だけでなく、苦手意識を持つ人にも古典の面白さを体感できるような身近な話題を選び、視覚的な教材も活用して学生の興味関心を深める授業を行っています。

「平安貴族といえば、優雅に和歌を詠み宴に興じるイメージがありますが、彼らの日記からは同僚に嫉妬したり、長時間労働を強いられたり、現代人と変わらない働き方が見えてきます。当時の習俗がそのまま現代の慣習となっていることも。そんな共感を出発点に学びを深めてほしい」と、担当教員の外山先生は学生の好奇心を大切に、古典の魅力を伝えています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

大学

健康医療科学部 医療貢献学科 理学療法専攻

コミュニケーション実習

里中 綾子 教授

多彩なコミュニケーション方法を1年次から実践し、
障がいがある方と社会の架け橋となる人材を育成。

チーム医療の一員として、病気やケガなどで身体に障がいのある人を運動機能の回復や予防の側面から支援し、コミュニケーション能力も必要とされる理学療法士。4日間連続の集中プログラムで実施する「コミュニケーション実習」は、学内での事前学習に始まり、2日目には様々な程度の脳性まひのある方を招いての直接的なコミュニケーション実践、3日目の医療福祉施設への見学、最終日の振り返りとまとめ発表を通して、障がいのある子どもや人への理解を深め、コミュニケーション技術とチーム医療における理学療法士の役割を学びます。「実際に体験することで、コミュニケーションの方法はことばだけじゃないことがわかるはず」と担当教員の里中先生。「障がいとは特別なものではないことを1年次のうちから理解し、自分なりのコミュニケーションの取り方を学んでほしい」と、学生にエールを送ります。

